

十和田の火山活動解説資料（令和5年12月）

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1）

銀山監視カメラによる観測では、噴気や湖面の異常等は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図2）

1月8日（期間外）に火山性地震が一時的に増加し、日回数は12回となりました。震源は中湖の北約5kmの深さ約5km付近と推定されます。最大の地震は13時11分頃に発生し、マグニチュード※は3.7でした。秋田県小坂町で最大震度2を観測しました。低周波地震、火山性微動は観測されませんでした。その他の期間は、火山性地震は少ない状態で経過し、より浅い場所を震源とする火山性地震は観測されませんでした。十和田では、これまでも深さ5km前後での地震が発生しています。

※ マグニチュードは地震の規模を示します。この値は暫定値で、後日変更することがあります。

・ 地殻変動の状況（図3、図5）

十和田周辺の一部のGNSS基線長では、2023年前半から大川岱観測点の西方向への変位によるものとみられるわずかな変化が認められていましたが、7月頃から鈍化しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和6年1月分）は令和6年2月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、弘前大学、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。



図1 十和田 中湖周辺の状況（12月24日）
・ 銀山監視カメラ（中湖の北西約6km）の映像です。

噴気や湖面の異常等は認められませんでした。

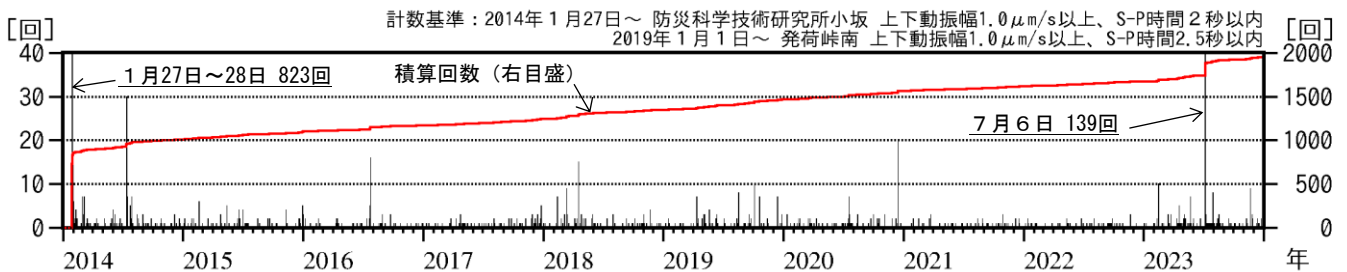


図2 十和田 日別地震回数（2014年1月～2023年12月）

1月8日（期間外）に火山性地震が一時的に増加し、日回数は12回となりました。震源は中湖の北約5kmの深さ約5km付近と推定されます。その他の期間は、火山性地震は少ない状態で経過し、より浅い場所を震源とする火山性地震は観測されませんでした。

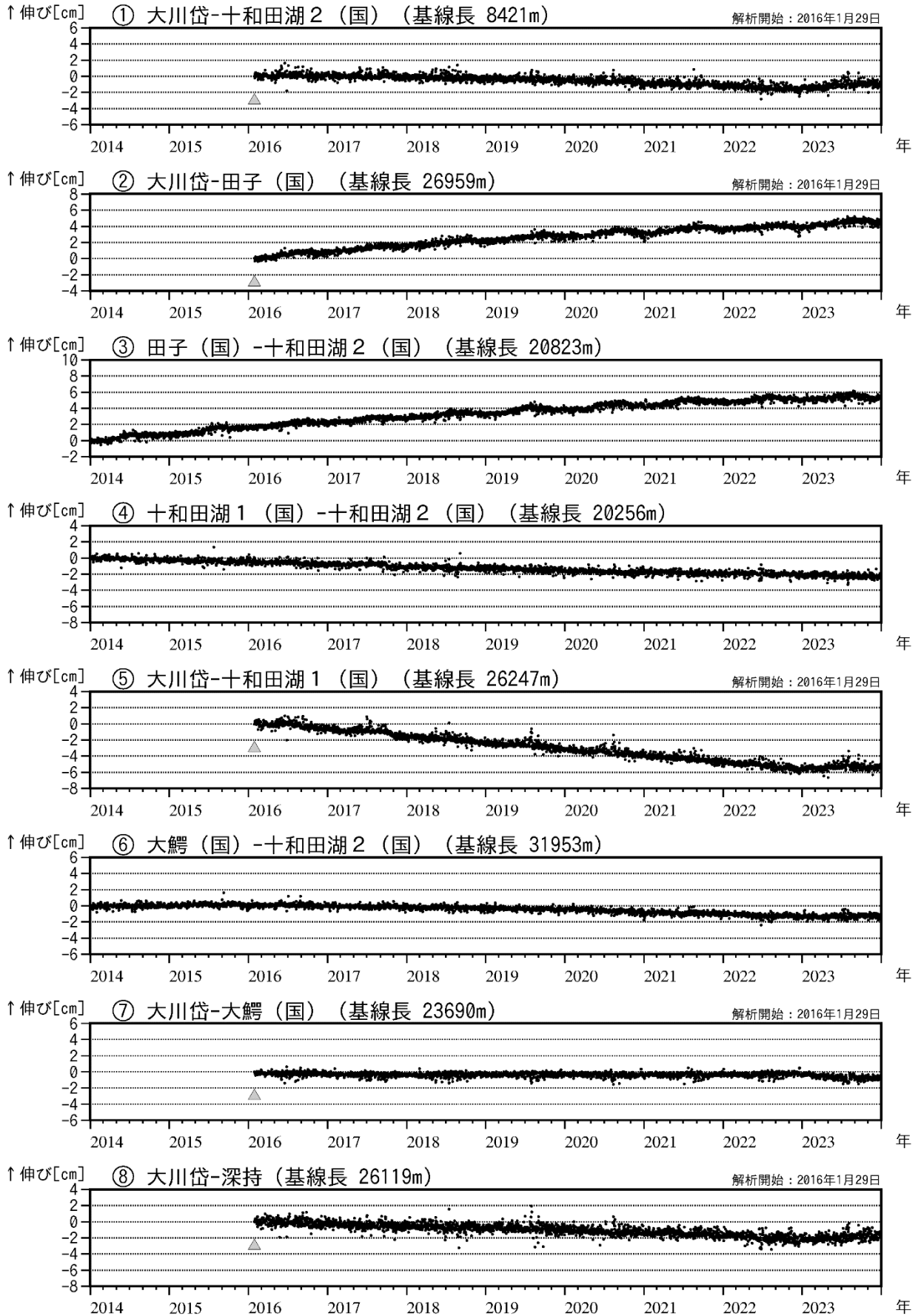


図3 十和田 GNSS 基線長変化図（2014年1月～2023年12月）

- ・①～⑧は図5のGNSS基線①～⑧に対応しています。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- ▲：解析開始を示します。

十和田周辺の一部のGNSS基線長（①⑤⑦）では、2023年前半から大川岱観測点の西方向への変位によるものとみられるわずかな変化が認められていましたが、7月頃から鈍化しています。

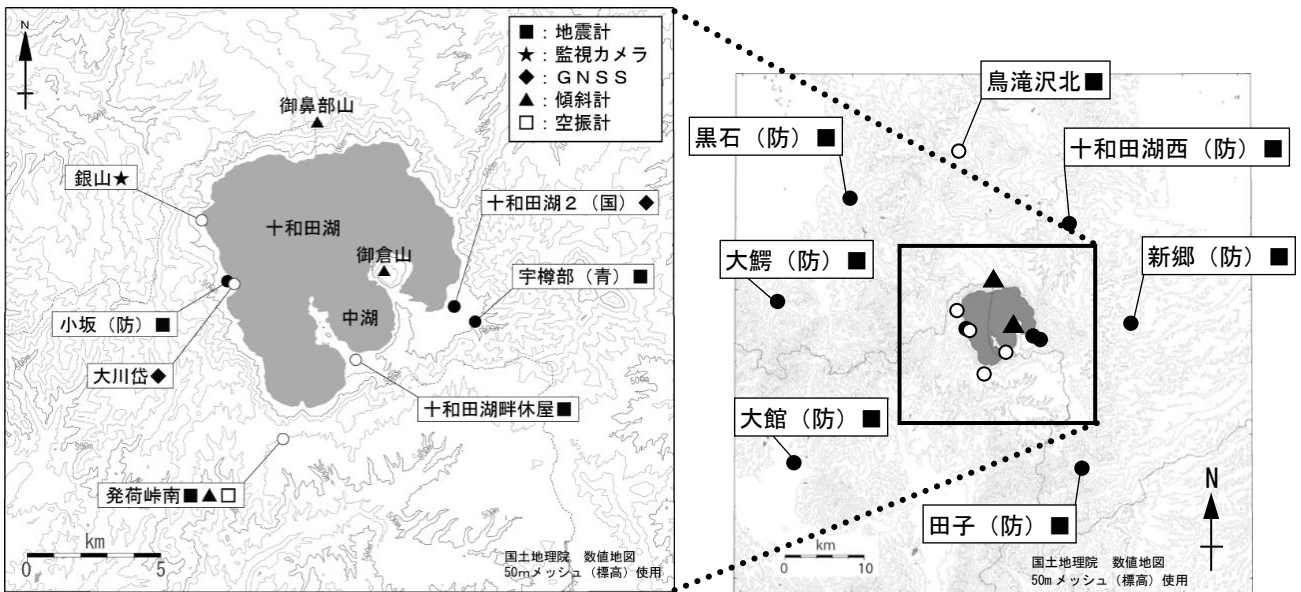


図4 十和田 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院 （防）：防災科学技術研究所 （青）：青森県

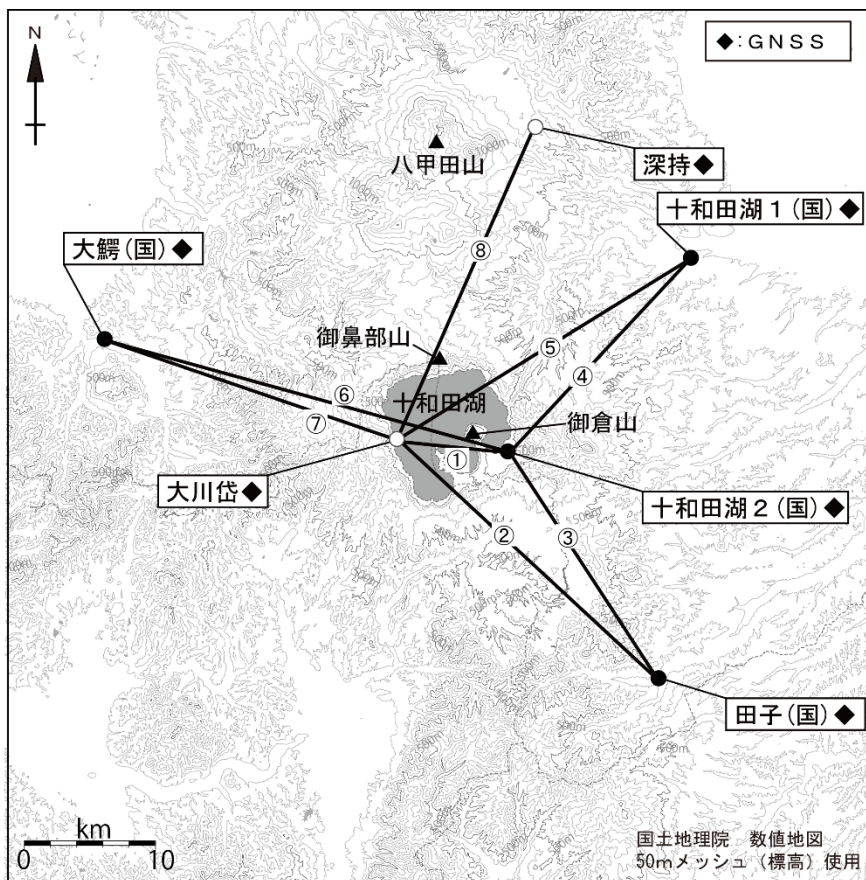


図5 十和田 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院